

「25th ミーティングに関する報告書」(2002.2.2)

1. 全体的な印象

2001年の総括と、「マンネリに陥らないため」「コア・メンバーを拡充するため」「社会的なカタチを作り出すため」の、2002年の運営手法とテーマについて、ディスカッション。

・・・でした。

で、こちらに時間をとられ、サブテーマは駆け足で。

2. フリートーキング

参加者全員による恒例の「近況報告」・・・

■ 外相更迭 >>首相がさらに刺激的なパフォーマンスに出るのでは？

■ 危機管理 >>たとえば、雪印。損失回避を利益と考えていない。

■ 自衛隊 >>テロ対策講義が始まるとのこと。

■ 生保業界 >>顧客情報の管理の甘さ。

■ 金融機関 >>破綻の日常化。もともとの資金繰りの観念がない。

ペイオフのリスク。

■ 起業 >> 補助金、公的融資と、事業計画。

■ 財務戦略 >>債権売買。

3.” 戦略研2002年アクションプラン策定”のディスカッション

大筋としては、

①2001年の総括、

②会のビジョンの再確認、

③2002年の戦略、そして具体的アクションプランという流れでした。

まず、①「2001年の総括」としては、情報交換の場として「継続」性は果している。

しかし、テーマが一巡しインパクトが少なめ、メンバーが多忙な方が多く、レポート率が低下、「会」そのものの動きがみられない、という問題が提起されました。

・・・また、2001年は総括すると、「停滞」期ではなかったか、と。

・・・メンバーからは、

「議論の時間を明確に」

「Out Putを出す」

「多様な価値観を尊重できるところにみるべきところがある」

「実績を、目にみえるかたちで ～メルマガの活用など」

「シンクタンク化」

「年間通しての企画 ～アンケートなど集計」

次いで、②「会のビジョンの再確認」として、  
代表より、「大仰かも知れないが、社会変革である」と。

そして、そのために、

「おもしろい人を集め、おもしろい人たちの話し合いにより、互いによりおもしろさを向上させ、これにより会そのものをよりおもしろくさせて、社会にアクションしていく」との、使命。

そして、③2002年の戦略となり、

漸進的な成長のための、(質的な向上と、活性化のための量的な要因につき)

- 1) マネリ化の克服
- 2) コアメンバーの拡充
- 3) 何かしらの会の活動としての「カタチ」というのが挙げられました。

具体的アクションプランとしては、

- 1) マネリ化の克服として、  
インパクトのあるテーマの選定。  
「ディスカッション・テーマ」として、おもしろいもの(政治ネタも含めて)。  
メンバーによる「発言テーマ」としては、  
たとえば、  
小泉首相と行政評価システム  
リーガル・リスク・マネジメント(生活教育)  
地域活性化と都市との交流  
危機管理  
ソフトウェア  
・・・というのが考えられる。

しかし、ミーティング1回だけでは、定義の刷り合せと、問題提起という議論の入り口までとなり、いままでの繰り返し。

また、定例のミーティングでは、初参加の方など、メンバーの入れ替えがあり、継続的にテーマを扱うのが難しい。

ただ、いったん自分の商売を離れての、話し合い、議論のニーズというのは、存在する。

この構築してきた、議論系というインフラを活用できないか。

・・・というところから、少人数で、集中的に、あるテーマを議論し、まとめ、提言としていく、「分科会」の発足が有用ではないかと。

>>この提案につき、浅利さんより、「危機管理」についての戦略研との共同作業の申し入れがありました。

そして、これが・・・

2) コアメンバーの拡充

積極的な参加意識へ。

メンバーとして何を求められ、何をすべきか、という刺激。

3) 何かしらの会の活動としての「カタチ」というのが挙げられました。

・・・「研究会」的要素の特化につながるのではないかと。

その上で、FNSだけでなく、定例ミーティングについては、人脈形成と情報交換という「交流会」的要素の特化ができるのではないかと。

3. 「貸さない、借りない、保証しない」の本編『保証人のリスクとは？』

情報提供 : 茂木

お題として、保証人のリスクには、何があるのでしょうか？

e x. 10年来の友人から、「どうしても、今月200万円が必要なのだ。

お前だから頼むんだ。迷惑はかけない」と、保証人になることを依頼されました。

友人は、「名前だけ借りるだけだ」とか、「実家の父親は、不動産を持っているから、大丈夫だ」とか、言いながら、泣き始めてしまいました。

あなたなら、どうします？・・・というものでした。

まず、金銭消費貸借という契約について、そして、これに保証契約が合わさると、どうなるかについて、法律面から説明しまして・・・

次いで、実際の契約書（街金）のそこに書く意味、書かれている意味について・・・  
そして、このような意味があまりわからず、署名し押印することの危険性。  
また、プロ対アマでは、抵抗できないということ。

さらに、通常の保証人と連帯保証人のリスクの差・・・  
というよりは、連帯保証人は、借主（債務者）の立場と変わらないこと。  
また、貸主（債権者）は、むしろ連帯保証人の資産を狙っている可能性。  
そして、これに「利息」がからめば、無限責任の恐ろしさが現れる。

で、結局、MLでのみなさまの回答のとおりの対応が適切であること。  
「つっぱねる」「友人関係終わり」「せめて、有限責任化する（直接貸す、一部のみ保証の明記など）」

なによりも、「契約の段階で、しっかりと説明を受け、一方的な不利となっていないか、チェックし、  
トラブル（リスク）を事前に回避するようにすべきであろう」と。

・・・個人の生活におけるリーガル・リスク・マネジメントの意識の必要。

・・・というような感じで、  
あっという間の3時間でした。